

1 5m。右側に菓子不動明王とほられた石碑がある。直瀑。滝の右側をブッシュ伝いに直登。すぐ上の2mもなんなくパス。右岸に石垣がつづいている。道路があるためだろう。F2 2.5m, F3 3mと続いて現われ、また旧国道へ出る。今度は橋ではなく、トンネル状。ここを通りぬけるとすぐ二俣。

右俣へ入るつもりだったが、左俣の方が水量も多いのでそっちに入り、右俣の方は下降路とすることにする。滝の連続となる。F4 3.5mは右側をパス。前方に7m程の滝が見えたと思ったら、何と35m程もあるこの沢最大の滝である。ここは左岸を直登。この滝のすぐ上にもF6 10m, F7 5mと続く。この上はナメ滝が連続。支沢を分けた所のF10を超える。水が少なくなってきた。やぶこぎに入る。10分程でちょうど1111.4mの三角点へ出た。

尾根ぞいにふみあとをたどり、右俣の下降開始。しばらくはなにもなし。トンネルのすぐ上にあった6mの滝以外特記することもなかった。トンネルに出た所で下降終了とする。

(記。)

週行開始(6:45)——二俣(8:05)——1111.4m三角点(9:25, 9:50)——下降点(10:00)——菓子隧道(10:50)

~~菓子沢 下平沢~~
滑谷沢左俣三ノ沢(仮称)

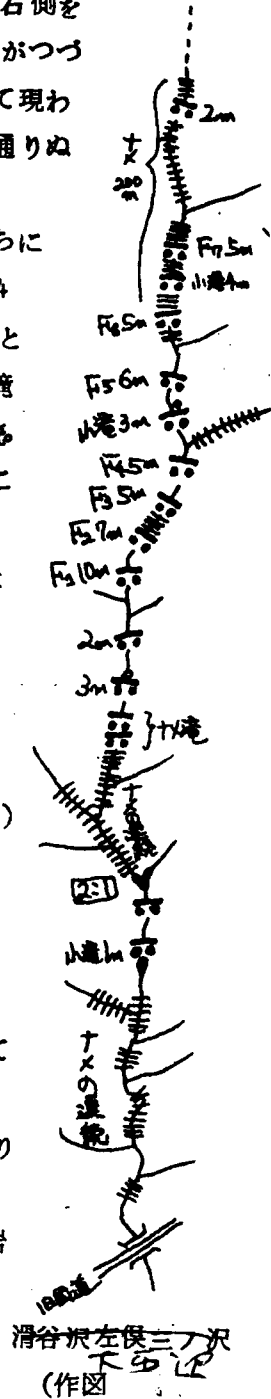
1981年8月30日
L

朝霧にぬれながら旧国道を歩く。しっかりした道である。モルゲンロートに向いの山は輝いている。時刻は6時を少しまわっている。地下足袋のため、スタスタとスピーディに歩ける。

6:45入谷。水は冷たくない。水量はそう多くないので、あまり滝は望めそうもないみたいだ。

稜線が真近のためか、支流が多い。そして、古い山地のため、岩が露出し、ナメもまた多い。ナメはフリクションがよく効き、快適に登れる。岩魚がいそうであるが、2人ともそれに興味はない。

1時間も歩いて、やっと滝に会った。「お前を待っていた



んだよ。」小滝を4つ過ぎてF1 10m,そして、これからナメと滝の連続となる。大きい滝ではないが、5m くらいのもものが続く。どれもむずかしくない。やはり期待は無理だ。ところが、素晴らしいナメがでてきた。長さは約200m。程良い傾斜と沢床が黄色で滑らかなため、まるで舗装の道のようなのである。ジャブジャブとおもしろく歩いてゆける。水は溪流写真のように、滞らず、一米乱れずに流れてゆく。見事だ。このままどこかに通じているように錯覚してくる。

まもなく伏流となり、ハイマツのブッシュをこぎ、県境尾根へ出た。

(記。)

選行開始(6:45)——伏流(8:00)——尾根(8:15)

滑谷沢
滑谷沢右俣右沢

1981年8月30日

L

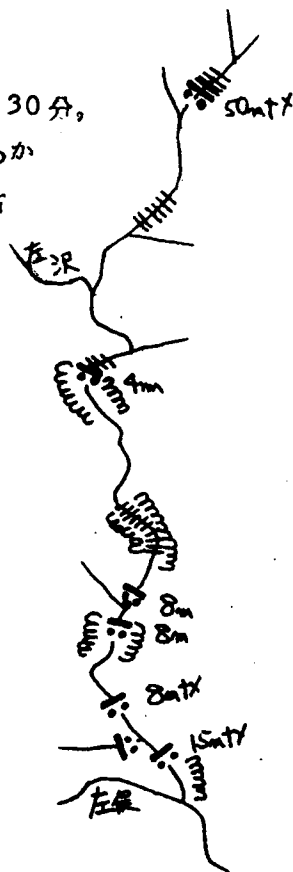
幕営地から旧国道を滑谷沢出合まで、約50分歩く。6時30分、滑谷沢左俣の下降開始。はじめはゴロ状であるが、中ごろから沢床がグリーンのナメとなる。滝を3つ程越えて8時、右俣分岐に到着。

右俣に入るとすぐ15mナメ滝が現われ、我々を喜ばせる。その先5分足らずでまた8mナメ滝。そして20分あとに、今度は完全な滝、8m。ここは左岸を直登する。この次の8mもわけなく直登して進む。50mほどのナメ、4mの滝、小さなナメと過ぎ、ゴロ状となったところが左沢との分岐。ここで相前後して進んできた萩原パーティとわかる。

ナメが続く。右岸に支流をわけた所にかかる50mトイ状ナメ滝を越えると、水量は極端に減り、一部は伏流となっている。10時45分、沢に別れをつけ稜線をめざす。

(記。)

右俣出合(8:00)——左沢分岐(9:35)——終了(10:45)



滑谷沢右俣右沢

(作図:菅野)